B 76　女子学生と母親の衣類着装状況の相違について

中村学園短大　○石橋葉子　深見公子

目的　近年生活環境の変化は著しいが、若い人達と40才以降の婦人達の着用衣服に相違があるか否かについて興味をもち調査を行ったので報告する。

方法　調査対象者：本学短大2年生とその母親（以下前者をA、後者をBとする）。調査内容：1980年度に室内着について、1981年度に外出着について調査した。調査時：両調査とも春、夏、秋、冬（5月、8月、11月、1月）の計4回調査した。前者をM調査、後者をN調査とする。調査人員：M調査は218人、N調査は214人、何れも同一人を対象としたが、M、Nの調査対象は異る。調査内容：衣服重量、寒暑感覚、服種、衣服構成、衣服材料、枚数、などとした。調査方法：自己記入式アンケート法により集計整理の上女子学生（20才前後）と母親（40才以降）の比較を行った。

結果　1）衣服総重量は、両調査とも秋、冬にBの方がAより重い傾向であったが、特に冬に顕著にあらわれた。　2）衣服着用の総枚数は、両調査ともBの方が多く、特に室内着において顕著であった。3）服種のなかでA、Bの相違の認められたものは、ブラジャー、スリップ、ショーツ、くつ下、などの最内層のものに多かった。　4）体表面積による分類で衣服の総重量にA、Bの相違の認められたものは、M調査の夏と冬であった。5）寒暑感覚と衣服重量との相関は両調査ともほとんど認められなかった。